

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	学校プール一般開放事業					②事業番号	7102
③事業類型	3. 政策推進事業			④開始年度	昭和 39 年度	⑤終了予定年度	令和 1 年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	法令	○ 条例	○ 規則	要綱	計画等	その他	法令等の名称: 泉南市立学校建物及び設備使用条例他
⑦実施手法	直営	全部委託	○ 一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	9	項	1	目	6	細目 2
⑨担当部名	⑩担当課名			会計 一般会計			
教育部	教育総務課						

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 市民および各種団体	① 市民	人
② 市立小学校児童	② 市立小学校児童(5月1日現在)	人
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
市内10箇所の学校プールを5グループに分け、遊泳用プールの施設・衛生基準(安全対策や水質の維持など)を遵守した上で、5日に1回、一般開放した。 開放期間: 平成30年7月27日～平成30年8月24日(平成30年8月12日～平成30年8月15日は除く。)25日間 開放時間: 午後1時～午後4時 入場料金: 大人200円 小人100円	① 開設日数	日
	② 学校プール開放数	箇所
	③ 施設利用可能日数	日
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
学校施設を有効に活用することで、子ども達の夏休み中の居場所を確認する学校プールの開放に際して、遊泳用プールの施設・衛生基準を遵守し、安全に開放する。	① 利用者数	人
	② 1施設1日あたりの利用者数	人
	③ 利用者あたりのコスト	円
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
学校プールの維持管理を行い一般開放することで、子ども達の夏休み期間中の居場所の確保、市民の体力強化や生涯学習として交流の場と機会の提供に繋がる。	政策(章)	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち
	施策大(節)	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします
	施策中	3 青少年、子どもの健全育成
	施策小	4 子どもの居場所づくり

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標①	市民	人	63,125	62,549	61,984			
対象指標②	市立小学校児童(5月1日現在)	人	3,651	—	—			
活動指標①	開設日数	日	—	24	11			
活動指標②	学校プール開放数	箇所	—	10	10			平成28年度は、学校プールの一般開放に替えてサンエス温水プールを活用した。 平成30年度は、猛暑による熱中症対策を講じたため、開設日数、利用者数が減少した。
活動指標③	施設利用可能日数	日	28	—	—			
成果指標①	利用者数	人	1,408	1,788	529			
成果指標②	1施設1日あたりの利用者数	人	50.2	37.3	22.0			事業費などの推移における特殊要因などの説明 平成28年度は、学校プールの一般開放に替えてサンエス温水プールを活用したため、委託料が減額となった。 令和元年度は、熱中症の危険性等を考慮し、事業を中止する。
成果指標③	利用者あたりのコスト	円	7,161	10,414	35,253			
事業費	投入人員	人	0.52	0.52	0.53			
	正職員	人	0.05	0.00	0.05			
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00			
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00			
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	4,338	4,176	4,461			
	直接事業費	千円	5,745	14,445	14,188			
	総事業費	千円	10,083	18,621	18,649			
		千円						
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0			
	府支出金	千円	0	0	0			
	受益者負担金	千円	0	0	0			
	その他特定財源	千円	30	185	51			
	一般財源	千円	10,053	18,436	18,598			

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	学校プール設置による。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	年々熱中症の危険性が高まっている。平成30年度は、熱中症対策として、学校プール開放基準を設けて実施した結果、開放日数が大幅に減少した。今後も、夏期の気温は上昇傾向であると考えられ、より一層の熱中症対策が必要になる。加えて、施設の老朽化等による維持管理経費等の増加が見込まれる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	委託事業者を確保するため、実施内容を一部見直した。

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

B

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	子ども等が安心して集い過ごせる居場所づくりに繋がるが、年々夏期の気温が上昇しており、熱中症の危険性が高まっている。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	学校プールの開放であり、市が関与しなければならない。民間に類似サービスはあるが、利用者の費用負担に格差がある。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	平成25年度からは監視業務の特殊性ということもあり事業費規模は過去に比べ増加している。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	夏期の学校プール一般開放についてはニーズがあり、影響はある。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

B

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	H25年度以降は、過去ほどの集客は無く、伸び悩んでおり、期待どおりの成果は得られていない。また、平成30年度は、熱中症対策として、学校プールの開放判断基準を設けたため、開放日数が減少した。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)	ア. ある イ. ない	開放期間、範囲などを工夫すれば成果向上の余地はあるが、熱中症対策等安全面での対策が必要である。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	教育施設を活用しての一般開放であるので、不可能。

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

A

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	監視業務の特殊性ということもあり過去に比べ、事業費規模は増加傾向。安全性を確保するため、コスト削減は困難。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	利用料金の見直し。

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当
	C	施設の老朽化等による維持管理経費等の増加が見込まれるとともに、夏期の気温上昇に伴う熱中症等の危険性が年々高まっている。 より良い教育環境を提供するためには、民間等のプール施設の活用を含めた実施方法を検討する必要がある。	B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

工	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	(年まで) (H31 年から) (年から)
	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など		学校プールの一般開放以外の代替事業も含め検討が必要。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		本事業以外の子どもの居場所づくり事業の充実強化。